

2023 年度

札幌市立大学大学院

看護学研究科博士論文

ISPCAN Child Abuse Screening Tool-Parent version3

(ICAST-P Ver.3)の日本語版の開発

Development of the Japanese version of the ISPCAN  
Child Abuse Screening Tool-Parent version3 (ICAST-P Ver.3)

学籍番号：2175001 氏名：岩崎 美輝

## 目次

第 1 章 序論	
I . 研究の背景	1
II . 研究目的	1
第 2 章 文献検討	
I . 解明点	2
II . 未解明点	2
第 3 章 第 1 研究 ICAST-P Ver.3 日本語版(案 1)の作成	
I . 研究目的	4
II . 研究方法	4
III . 結果	4
IV . 考察	4
第 4 章 第 2 研究 内容的妥当性の検証	
I . 研究目的	5
II . 研究方法	5
III . 結果	5
IV . 考察	5
第 5 章 第 3 研究 信頼性と妥当性の検証	
I . 研究目的	6
II . 研究方法	6
IV . 結果	6
V . 考察	6
謝辞	7
引用文献	8

## 図 目次

図 1	順翻訳、逆翻訳のプロセス	1
図 2 - 1	家族の中での立場 非暴力的しつけ	2
図 2 - 2	家族の中での立場 身体的虐待 (中程度の体罰)	3
図 2 - 3	家族の中での立場 身体的虐待 (厳しいしつけ)	3
図 2 - 4	家族の中での立場 心理的虐待 (心理的しつけ)	4
図 2 - 5	家族の中での立場 心理的虐待 (ネグレクト)	4
図 3	確認的因子分析	5

## 表 目次

### 第 1 研究

表 1	順翻訳 . . . . .	1
表 2	逆翻訳 1 回目 . . . . .	3
表 3	逆翻訳 2 回目 . . . . .	6
表 4	文化適応の検討 . . . . .	7

### 第 2 研究

表 5	ICAST-P Ver.3 日本語版(案 1)の回答結果	
表 5 - 1	子どもの基本属性 . . . . .	8
表 5 - 2	親の基本属性 . . . . .	9
表 5 - 3	過去 1 年間における世帯の状況 . . . . .	10
表 5 - 4	体罰の効果 . . . . .	10
表 5 - 5	非暴力的なしつけ . . . . .	11
表 5 - 6	身体的虐待 . . . . .	12
表 5 - 7	心理的虐待 . . . . .	13
表 5 - 8	ネグレクト . . . . .	14
表 5 - 9	性的虐待 . . . . .	14
表 6	対象者のインタビュー内容より検討した項目 . . . . .	15
表 7	専門家会議で検討した項目 . . . . .	19

### 第 3 研究

表 8	子どもの基本属性 . . . . .	22
表 9	親の基本属性 . . . . .	23
表 10	過去 1 年間における世帯の状況 . . . . .	24
表 11	体罰の効果 . . . . .	24
表 12	ICAST-P Ver.3 日本語版の度数分布	
表 12 - 1	非暴力的しつけ . . . . .	25
表 12 - 2	身体的虐待 . . . . .	26
表 12 - 3	心理的虐待 . . . . .	27
表 12 - 4	ネグレクト . . . . .	28
表 12 - 5	性的虐待 . . . . .	28
表 13	ICAST-P Ver.3 日本語版の基礎統計	
表 13 - 1	非暴力的しつけ . . . . .	29
表 13 - 2	身体的虐待 . . . . .	30
表 13 - 3	心理的虐待 . . . . .	31
表 13 - 4	ネグレクト . . . . .	32
表 13 - 5	性的虐待 . . . . .	32

表 14	子どもの性別による比較	33
表 15	子どもの年齢による比較	34
表 16	異文化間妥当性	
表 16 - 1	非暴力的しつけ	35
表 16 - 2	身体的虐待	36
表 16 - 3	心理的虐待	37
表 16 - 4	ネグレクト	38
表 16 - 5	性的虐待	38
表 17	探索的因子分析による因子負荷量	39
表 18	構成概念妥当性	40

## 資料 目次

### 第 1 研究

資料 1	COSMIN 研究デザイン・チェックリスト・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(本研究の該当箇所にチェックを付けた資料)	
資料 2	ICAST-P Ver.3 英語版・・・・・・・・・・・・・・・・	4
資料 3	ICAST-P Ver.3 日本語版の開発についての許諾文書・・・・・・・・	5
資料 4	Manual for Administration:・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	The ISPCAN Child Abuse Screening Tool (ICAST)	
	(Instrument Translation; p13)	
資料 5	ICAST-P Ver.3 日本語版(案 1)・・・・・・・・・・・・・・・・	13
資料 6	ICAST-P Ver.3 日本語版(案 1)の使用許諾に関する文書・・・・	21

### 第 2 研究

資料 7	施設長への研究協力依頼文書・・・・・・・・・・・・・・・・	22
資料 8	研究協力依頼文書・・・・・・・・・・・・・・・・	24
資料 9	研究協力の回答書・・・・・・・・・・・・・・・・	27
資料 10	返信用封筒・・・・・・・・・・・・・・・・	28
資料 11-1	研究協力の同意書 (研究対象者控え)・・・・・・・・	29
資料 11-2	研究協力の同意書 (研究者控え)・・・・・・・・	30
資料 12	Manual for Administration: The ISPCAN Child Abuse	
	Screening Tool (ICAST) (ICAST-P; p22-26)・・・・・・・・	31
資料 13	インタビューガイド・・・・・・・・・・・・・・・・	36
資料 14	ICAST-P Ver.3 日本語版・・・・・・・・・・・・・・・・	37

### 第 3 研究

資料 15	研究協力依頼文書・・・・・・・・・・・・・・・・	45
資料 16	所属長様用研究協力依頼文書・・・・・・・・・・・・・・・・	47
資料 17	ICAST-P Ver.3 日本語版質問紙・・・・・・・・	49
資料 18	ICAST-P Ver.3 日本語版 WEB 版質問紙・・・・・・・・	58

## 本文

本文は 5 年以内には出版予定のため 一部非公開とする。

## 第 1 章 序論

### I . 研究の背景

2009 年、国際子ども虐待防止学会(以下 ISPCAN)は、世界中で起きている深刻な子ども虐待を予防するために、ISPCAN Child Abuse Screening Tool-Parent version1 (以下 ICAST-P Ver.1)を開発した(Runyan et al.,2009)。ICAST-P Ver.1 英語版は親を対象とする自己記入式質問調査票であり、過去 1 年間における子どもに対する親のしつけの行動から育児による子どもの加害状況を測定する。2009 年以降、ICAST-P Ver.1 英語版は 16 言語に翻訳された。その後、2 度の改訂を経て、2015 年に ICAST-P Ver.3 英語版が作成された(Runyan et al.,2015)。設問は、43 項目(非暴力的しつけ 6 項目、身体的虐待 16 項目、心理的虐待 14 項目、ネグレクト 5 項目、性的虐待 2 項目)で構成されている。ICAST-P Ver.3 英語版(以下原版)は、スペイン語、ロシア語、韓国語、中国語に翻訳されているが、未だ ICAST-P Ver.3 の日本語版は開発されていない。

### II . 研究目的

本研究の目的は、ICAST-P Ver.3 の日本語版を作成し、信頼性と妥当性を検証することであった。

## 第 2 章 文献検討

### I. 解明点

#### 1. ICAST-P 翻訳版の開発プロセス

5 言語の ICAST-P 翻訳版の開発プロセスは、順翻訳、逆翻訳、パイロットテストの順で行われた。そのプロセスに使用した文献や書籍は、「Guidelines for the Process of Cross-Cultural Adaptation of Self-Report Measures」(Beaton et al.,2000)、「Adapting Educational and Psychological Tests for Cross-Cultural Assessment」(Hambleton et al.,2012)だった。また、翻訳版の開発プロセスの評価には、「COSMIN 研究デザイン・チェックリスト」が使用されていた(Mokkink et al.,2019)。

#### 2. ICAST-P 翻訳版の項目

ICAST-P の翻訳版は、各国の文化的背景により、項目の追加や修正が行われた。性的虐待は、トルコ(Sofuoğlu et al.,2016)、パレスチナ(Kamal et al.,2018)、中国(Chen et al.,2020)、エジプト(AboKresha et al.,2021)では項目が削除されたが、南アフリカ(Meinck et al.,2018)では「セックスを強要された」という項目が追加された。

#### 3. 各国での子ども虐待の状況

タイでは、虐待行為とみなされたしつけ行動や育児方法は、心理的しつけが多く、次いで体罰だったことが明らかになった(Patcharoros et al.,2014)。トルコでは、親が子どもをしつける際に、叱責、侮辱、体罰を有効な手段と考えていることが明らかになった(Sofuoğlu et al.,2016)。パレスチナでは、母親のしつけは厳しく、子どもを蹴る、殴る、枕などで窒息させるなどの行為が日常的に行われていた。また、母親の特徴として、年齢が若いこと、子どもが多いこと、教育レベルが低いことが明らかになった(Kamal et al.,2018; Harsha et al.,2020)。中国では、中程度の体罰は男子が女子より高く、子どもを 2 人以上もつ親はネグレクトを行っていたことが明らかになった(Chen et al.,2020)。エジプトでは、COVID-19 によるロックダウン中に大多数の子どもが過去 2 週間に少なくとも 1 つの暴力的なしつけを受けていたことが明らかになった(AboKresha et al.,2021)。

以上より、ICAST-P を使用することによって、①親が行っている虐待の類型や特徴が明らかになること、②COVID-19 や政治的背景など国の社会情勢の変化を反映した虐待の特徴が明らかになること、③各国における親の育児行動や虐待状況の国際比較が可能になること、が解明された。

#### 4. ICAST-P と ICAST-C の機能の比較

ICAST-P と ICAST-C の結果を比較した結果、親は子どもの虐待について過少に報告する傾向にあったことを明らかにした(Sofuoğlu et al.,2016)。

### II. 未解明点

ICAST-P Ver.1 英語版を使用した文献は、6 文献あった。ICAST-P Ver.3 英語版を使用した文献は 2 文献あり、その中で母国語を開発した文献は Chen et



al.(2020)が開発した中国語版だった。2021年、ISPCANが情報を開示している ICAST-P Ver.3 英語版の翻訳版は、スペイン語、ロシア語、韓国語であり、中国語版と合わせると5言語の翻訳がある。2009年に開発した ICAST-P Ver.1 と比較すると、ICAST-P Ver.3 の翻訳を行った言語数は少ない。ICAST-P Ver.3 の日本語版は、開発されていない。また、ICAST-P Ver.3 を用いた調査は、本邦で行われていない。

## 第3章 第1研究 ICAST-P Ver.3 日本語版(案1)の作成

### I. 研究目的

研究目的は、ICAST-P Ver.3 英語版から順翻訳、逆翻訳、検討のプロセスを経て日本語へ翻訳を行い、ICAST-P Ver.3 日本語版(案1)を作成することであった。

### II. 研究方法

Manual for Administration : The ICAST に定められた方法に従い翻訳した。手順は、①ISPCAN に開発許諾を取得、②研究者はバイリンガル 2 名(1 名は子ども虐待に精通した専門家、1 名は子ども虐待の専門家ではない)による順翻訳の相違点を検討し順翻訳版を作成、③研究者はバイリンガル 2 名(子ども虐待の専門家ではない)による逆翻訳の内容を原版と比較、④原版に戻らなかった項目は逆翻訳を再度依頼し検討、⑤日本語版(案1)の作成、であった。また、COSMIN 研究デザイン・チェックリストの翻訳プロセスを参照とし正確性を確保した。

### III. 結果

順翻訳では、7 項目について検討を行い修正した。その後、順翻訳版を作成し、逆翻訳を行った。逆翻訳は、2 回繰り返した。1 回目では 9 項目の修正を行い、2 回目では 3 項目の修正を行った。修正後、日本語版(案1)を作成した。日本語版(案1)を ISPCAN に提出し審査を受けた。審査後、「修正箇所なし」との回答を得、使用許諾を得た。

### IV. 考察

翻訳過程は、Manual for Administration : The ICAST に則して行い、適正な手順を経て日本語版(案1)を完成した。

## 第4章 第2研究 内容的妥当性の検証

### I. 研究目的

研究目的は、ICAST-P Ver.3 日本語版(案 1)の内容的妥当性について検証を行い、ICAST-P Ver.3 日本語版を完成することであった。

### II. 研究方法

日本語版の内容的妥当性の検証を行った。方法は、①保育園に通園している3歳以下の子どもを持つ母親7人を対象とし日本語版の回答を依頼、②対象者に半構造化インタビューを実施(認知デブリーフィング)、③専門家会議を行い日本語版の適切性と網羅性を検討、④日本語版の完成、であった。

### III. 結果

対象者は日本語版(案 1)の全設問に回答し、誤回答はなかった。回答所要時間は平均15分であった。適切性に関する指摘は、対象者のインタビューにおいて8項目、専門家会議において8項目あり修正した。網羅性に関する指摘はなかった。以上より、日本語版を完成した。

### IV. 考察

認知デブリーフィングと専門家会議において日本語版の適切性と網羅性を検討し、日本語版の内容的妥当性を確保した。

## 第5章 第3研究 信頼性と妥当性の検証

### I. 研究目的

研究目的は、ICAST-P Ver.3 日本語版の信頼性と妥当性の検証を行うことであった。

### II. 研究方法

1歳6か月児健診と3歳児健診に来所した3歳以下の子どもをもつ母親を対象に、日本語版の信頼性と妥当性の検証を行った。

### III. 結果

日本語版の配布数は1200部であり、回収数は306部(回収率25.5%)、有効回答数は300部(98.0%)であった。信頼性は日本語版全体のCronbach's  $\alpha$ 係数が0.67、折半法による信頼性係数が0.72であった。構造的妥当性における探索的因子分析では、3因子が抽出された。第1因子は身体的虐待、第2・3因子は身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトが混在した。確認的因子分析では、適合度指標が算出できなかった。構成概念妥当性では、尺度化成功率が87.2~100%であった。異文化間妥当性では、非暴力的しつけが他国と比較し高い割合を示した。虐待行為では、「鬼がくると脅す(心理的虐待)」「大人が誰も見ていなかったため怪我をした(ネグレクト)」が他国よりも高い割合を示した。各項目の平均値は、非暴力的しつけ3.01、中程度の体罰0.11、厳しいしつけ0.01、心理的虐待0.39、ネグレクト0.05、性的虐待0であった。子どもの年齢による比較では、身体的虐待と心理的虐待は、1歳より3歳の方が有意に高かった( $p<.01$ )。ネグレクトは、3歳より1歳の方が有意に高かった( $p<.01$ )。また、家族の中での立場における比較では、非暴力的しつけにおいて有意差を認めた( $p<.05$ )。

### IV. 考察

日本語版の信頼性と妥当性が保たれていること確認した。特に、異文化間妥当性では日本語版が本邦において文化適応していることを確認することができた。また、本結果は、3歳以下の子どもをもつ親のしつけや子ども虐待における本邦の特徴を見出した。ポジティブなしつけである「非暴力的しつけ」行っている一方、「鬼がくる」「大人が誰も見ていなかったため怪我をした」は虐待行為であるという認識が低かったことを明らかにした。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、終始適切なお助言を賜り、丁寧に指導して下さった松浦和代教授に深く感謝申し上げます。本研究は、ICASTを開発した文献について検討した時、松浦和代教授がICASTの日本語版が作成されていないことを見出し、ICAST-P Ver.3の日本語版の開発を研究テーマにしてはどうかと薦めていただいたことで始まりました。この時のご指導がなければ、本研究に着手することはありませんでした。研究の方向性に悩み、壁にぶつかっていた時には、何度も面談の機会を作り、わかるまでご指導いただきました。それでも、研究の方向性を見失ったこともありました。しかし、松浦和代教授がいつも寄り添って見守ってくれているんだという安心感は精神的な支えとなり、温かい励ましをいただけたことや研究について一緒に考えていただけたことで、挫折することなく論文を完成することができたと思います。本当に、ありがとうございます。また、研究の各段階で、諸先生方にご指導していただく機会を作っていただきました。

第1研究では、順翻訳と逆翻訳時、町田佳世子教授に翻訳について丁寧なお助言をいただきました。このお助言により、ICAST-P Ver.3日本語版(案1)を完成することができました。町田佳世子教授に心より感謝申し上げます。第2研究と第3研究では、ISPCAN理事Meinck Franziska先生にICAST-P Ver.3の項目や回答コードについてご相談させていただきました。詳細な説明をいただけたことで、ICAST-P Ver.3の理解に繋がり研究を前へ進めることができました。Meinck Franziska先生に心より感謝申し上げます。

本研究にご理解をいただき調査にご協力いただきました保育園の職員の皆様、各市町の職員の皆様、3歳以下の子どもをもつお母様とそのご家族の皆様、専門家会議にご協力いただきました子ども虐待専門家の皆様に心より感謝申し上げます。

研究を進めていく上で励まし支えてくれた札幌市立大学大学院看護学研究科博士後期課程小児看護学領域の大学院生の皆様、親切に対応してくれた桑園事務局の皆様、様々なご配慮をいただきました職場の皆様、そして大学院生活を温かく見守ってくれた家族に感謝申し上げます。

## 引用文献

- AboKresha Seham Ahmed, Abdelkreem Elsayed, Elhameed Ali Rasha Abd .(2021). Impact of COVID-19 pandemic and related isolation measures on violence against children in Egypt. *Journal of the Egyptian Public Health Association*, 96(1),11.
- 東雅代,西村真実子,米田昌代,井上ひとみ,梅山直子,宮中文子,堅田智香子,和田五月,松井弘美.(2009). 乳幼児をもつ母親の育児困難の状況－母親および子育て支援に関わるエキスパートへのフォーカス・グループ・インタビューから－. *石川看護雑誌*,6,1-10.
- Beaton. Dorcas E, Bombardier Claire, Guillemin Francis, Ferraz Marcos Bosi.(2000). Guidelines for the Process of Cross-Cultural Adaptation of Self-Report Measures. *SPINE*,25(24), 3186–3191.
- Chen Chen, Wang Xi , Qin Jinliang, Huang Zixuan.(2020). Psychometric testing of the Chinese version of ISPCAN Child Abuse Screening Tools Parent’s version (ICAST-P). *Children and Youth Services Review*,109,1-8.
- Chen Chen.(2023).The relationship between parental depression and child internalizing and externalizing problems: The roles of parenting stress and child maltreatment. *Public Health*,11,1-9.
- Fayers M.Peter & Machin.David .(2000/2005).福原俊一,数間恵子(訳),QOL 評価学,中山書店.
- 福井里美,広瀬寛子,米村法子,坂元敦子,新井敏子,三浦里織.(2023).がん終末期看護に携わる看護師のやりがい感尺度の信頼性と妥当性の検討.*日本がん看護学会誌*,37,60-73.
- 古川薫,森脇智秋.(2020).子ども虐待のハイリスクな母親の育児力アセスメントツールの開発,*母性衛生*,61(1),151-158.
- Guillemin Francis, Bombardier Claire, Beaton Dorcas.(1993).Cross-cultural adaptation of health-related quality of life measures: literature review and proposed guidelines. *Journal of Clinical Epidemiology*,46(12),1417-1432.
- Harsha Nouh , Lynch. Margaret A, Giacaman Rita.(2020). Child abuse in the West Bank of the occupied Palestinian territory (WB/oPt): social and political determinants. *BMC Public Health*,20(1),1130.
- Hambleton. Ronald K, Merenda.Peter F, Spielberger. Charles D. (2012).*Adapting Educational and Psychological Tests for Cross-Cultural Assessment*, Psychology Press.
- Hillis Susan, Mercy James, Amobi Adaugo, Kress Howard.(2016).Global Prevalence of Past-year Violence Against Children: A Systematic Review and Minimum Estimates. *PEDIATRICS* ,137 ,(3) ,1-14.
- 細坂泰子,茅島江子.(2017).乳幼児を養育する母親のしつけと虐待の境界の様相.*日本看護科学会誌*,37.1-9.

- 池上直己,福原俊一,下妻晃二郎,池田俊也.(2001).臨床のための QOL 評価ハンドブック,医学書院.
- 稲田尚子.(2015).尺度翻訳に関する基本指針. 行動療法研究,41(2),117-125.
- ISPCAN.(2021). ISPCAN Child Abuse Screening Tools (ICAST).The International Society for the Prevention of Child Abuse & Neglect, <https://www.ispcan.org/learn/icast-abuse-screening-tools/?v=402f03a963ba>. (閲覧日 2021 年 10 月 22 日)
- 加藤尚子.(2020).COSMIN 健康関連尺度に関する合意に基づく指針.看護研究, 53(1),47-53.
- Kamal Madeeha et al.(2018). Comparing disciplinary methods used by mothers in Palestine and Qatar. Child Abuse & Neglect, 81, 118-127.
- 神崎光子ら.(2012).FFS(家族機能尺度)日本語版の開発-養育期の家族を対象とした信頼性と妥当性の検討.日本看護科学会誌,32(1),50-58.
- 河村代志也, 加藤正子, 秋山剛, 高橋ゆきえ,三宅由子.(2005). 乳児の母親にみられる子ども虐待の可能性-3~4 カ月健康診査における日本語版子ども虐待ポテンシャル調査票(JCAP)の使用経験-.日本社会精神医学会雑誌,13.116-128.
- Kaplowitz, Michael D, Hadlock Timothy D, Levine Ralph. (2004).A Comparison of Web and Mail Survey Response Rates. Public Opinion Quarterly, 68(1),94-101.
- 川島美佳ら.(2001).乳幼児虐待の予防に向けた助産婦としての援助,母性衛生,42(1),176-183.
- Kempe .Ruth S, Kempe. Henry C. (1978). 5 Prediction and prevention. Child abuse The Developing Child(pp.59-67) ,Harvard University Press.
- Khazaei Sahel, Salehi Alireza, Vardanjani Hossein Molavi.(2023).Prevalence and correlates of child maltreatment among mothers in the Kurdistan province, Western Iran.The International Journal of Psychiatry in Medicine,0(0),1-15.
- 小橋明子,小橋拓真.(2017).幼児のしつけの実態と親のしつけに関する認識における現状と課題.藤女子大学人間生活学部紀要,54,191-200.
- Korfmacher Jon.(2000). The Kempe Family Stress Inventory: a review .Child Abuse & Neglect,24(1),129-140.
- 厚生労働省.(2020).令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数<速報値>, <https://www.mhlw.go.jp/content/000696156.pdf>.(閲覧日 2021 年 11 月 15 日)
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局.(2009a).「子ども虐待対応の手引き」の改正について, [https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/dl/130823-01d.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/130823-01d.pdf).(閲覧日 2021 年 11 月 15 日)
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局.(2009b).子ども虐待対応の手引き(平成 21 年 3 月 31 日改正版),<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv36/dl/02.pdf>.(閲覧日 2021 年 11 月 15 日)
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局.(2013).子ども虐待対応の手引き(平成 25 年 8 月

- 改正版), [https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/dl/130823-01c.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/130823-01c.pdf).(閲覧日 2021 年 11 月 15 日)
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局.(2017). 児童虐待に係る児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントツールについて, pp27.
- 小塩真司.(2018).SPSS と AMOS による心理・調査データ解析第 3 版,東京図書.
- 國吉智子.(2013).親子相互交流療法(PCIT)における限界設定の意義,神戸女学院大学論文集,60(1),109-123.
- 共益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン.(2021). 子どもに対するしつけのための体罰等の意識・実態調査結果報告書,  
[https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/php\\_report202103.pdf](https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/php_report202103.pdf).(閲覧日 2023 年 9 月 10 日)
- Lee Yanghee, Sangwon Kim.(2011).Childhood maltreatment in South Korea: Retrospective study. *Child Abuse & Neglect*,35(12), 1037-1044.
- Little, Roderick. J. A. (1988). A test of Missing Completely at Random for multivariate data with missing values. *Journal of the American Statistical Association*, 83, 1198-1202.
- Manfreda, Katja Lozar, Bosnjak Michael, Berzelak Jernej, Haas Iris, Vehovar Vasja.(2008). Web Surveys versus Other Survey Modes:A Meta-Analysis Comparing Response Rates. *International Journal of Market Research*, 50(1),79-104.
- Meinck Franziska et al.(2018). Adaptation and psychometric properties of the ISPCAN Child Abuse Screening Tool for use in trials (ICAST-Trial) among South African adolescents and their primary caregivers. *Child Abuse & Neglect*,82,45-58.
- Meinck Franziska, Murray Aja L, Dunne Michael P, Schmidt Peter.(2021). Factor structure and internal consistency of the ISPCAN Child Abuse Screening Tool Parent Version (ICAST-P) in a cross-country pooled data set in nine Balkan countries .*Child Abuse & Neglect*, 115, 1-12.
- Milner. Joel S, Gold. Ruth G, Ayoub Catherine, Jacewitz. Marion M.(1984). Predictive validity of the child abuse potential inventory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*,52(5),879-84.
- Mokkink. Lidwine B et al.(2019). COSMIN Study Design checklist for Patient-reported outcome measurement instruments.
- 内閣府.(2022). 子どもの貧困に関する現状.[https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/youshikisya/k\\_9/pdf/s2.pdf](https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/youshikisya/k_9/pdf/s2.pdf).(閲覧日 2023 年 8 月 26 日)
- 内閣府政策統括官.(2023).令和 3 年子供の生活状況調査の分析 1.調査の概要,  
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12772297/www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/chousa/r03/pdf/s1.pdf>.(閲覧日 2023 年 11 月 30 日)
- Ninomiya Tsuneo, Hashimoto Hiroko, Tani Hiroe, Mori Kenji.(2017).Effects of primary prevention of child abuse that begins during pregnancy and



- immediately after childbirth. *The Journal of Medical Investigation*, (64), 153-159.
- 日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会.(2014). 子ども虐待診療の手引き 第2版.
- 日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会.(2022). 子ども虐待診療の手引き 第3版.
- Ondersma. Steven J, Chaffin. Mark J, Mullins. Sharon M, LeBreton. James M. (2005). A Brief Form of the Child Abuse Potential Inventory: Development and Validation. *Journal of Clinical Child & Adolescent Psychology*, 34, 301-311.
- 小野寺麻衣,熊田真紀子,大桐規子,浅野玲子,小笠原喜美代,後藤あき子,柴田弘子,庄子由美,仙石美枝子,山内かず子,門間典子,宮下光令.(2013). 看護師のがん看護に関する困難感尺度の作成. *Palliative Care Research*, 8(2), 240-247.
- 桶水理恵,藤岡寛,古谷佳由里,宮本信也,家島厚,米山明.(2010). 障害児を養育する家族のエンパワメント測定尺度 Family Empowerment Scale(FES)日本語版の開発, *厚生*の指標, 33-41.
- Patcharoros Nontima, Chulakadabba Sudsabuy, Manorom Nattawadee Na, Boon-yasidhi Vitharon.(2014). Assessing Child Maltreatment in Children Born to Mothers Who Used Methamphetamine during Pregnancy at Siriraj Hospital, Bangkok, Thailand: A Pilot Study. *International Scholarly Research Notices*, 4.
- Rebecca R S Socolar 1, Eric Savage, Hughes Evans.(2007). A Longitudinal Study of Parental Discipline of Young Children. *Southern Medical Journal*, 100(5), 472-477.
- Runyan. Desmond K et al.(2009). The development and piloting of the ISPCAN Child Abuse Screening Tool—Parent version (ICAST-P). *Child Abuse & Neglect*, 33, 826-832.
- Runyan. Desmond K et al.(2015). Manual for Administration: The ISPCAN Child Abuse Screening Tool (ICAST). International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPCAN).
- 千年よしみ.(2020). ミックスモード調査における郵送・ウェブ回答の回答率・回答者属性・項目無回答率の比較. *人口問題研究*, 76(4), 467-487.
- Shih, Tse-Hua, Fan Xitao.(2007). Response Rates and Mode Preferences in Web-Mail Mixed-Mode Surveys: A Meta-Analysis. *International Journal of Internet Science*, 2 (1), 59-82.
- Silva Silveira Ana Ligia da, Grassi-Oliveira Rodrigo.(2016). Semantic validation of the ISPCAN Child Abuse Screening Tools (ICAST) in Brazilian Portuguese, *Trends in Psychiatry and Psychotherapy*, 38(2), 105-110.
- Staal. Ingrid I.E, Hermanns. Jo M.A, Schrijvers. Augustinus J.P, Van Stel. Henk F.(2013). Risk assessment of parents' concerns at 18 months in

- preventive child health care predicted child abuse and neglect. *Child Abuse & Neglect*, 37, 475-484.
- Stec Logan, Runyan. Desmond K.(2018). *Manual for Data Entry and Analysis of the ISPCAN Child Abuse Screening Tools (ICAST) Using Epi Info™*. International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPCAN).
- Steiner David L, Norman. Geoffrey R, Cairney John.(2015/ 2016).医学的測定尺度の理論と応用 妥当性、信頼性からの G 理論、項目反応理論まで.木原雅子, 加治正行, 木原正博(訳),*メディカル・サイエンス・インターナショナル*.
- Socolar Rebecca R S, Savage Eric, Evans Hughes.(2007). A longitudinal study of parental discipline of young children. *Southern Medical Journal*, 100(5):472-477.
- Sofuoğlu Zeynep, Sarıyer Görkem, Ataman M. Gökalp.(2016). Child Maltreatment in Turkey: Comparison of Parent and Child Reports.*Central European Journal of Public Health*. 24 (3),217–222.
- 消費者庁消費者安全課.(2023).子どもの不慮の事故の発生傾向～厚生労働省「人口動態調査」より～.[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/27467e16-c442-413b-9cf207f6edb24e26/38926ebb/councilschild-safety-actions-review-meetings2023\\_03.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/27467e16-c442-413b-9cf207f6edb24e26/38926ebb/councilschild-safety-actions-review-meetings2023_03.pdf).(閲覧日 2023 年 9 月 10 日)
- 社会保障協議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会。(2021).子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について第 17 次報告, <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000825392.pdf>. (閲覧日 2021 年 9 月 15 日)
- Tanaka Shota et al. (2020). Validation study of the Japanese version of MD Anderson Symptom Inventory for Brain Tumor module. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 50(7),787–793.
- 寺井孝弘.(2018). 親の心理的特徴に着目した児童虐待のリスクアセスメント項目リストの検討. *石川看護雑誌*,15,39-50.
- 辻京子.(2016).母子保健分野における児童虐待防止活動とリスクアセスメント. *四国大学紀要*,47,37-50.
- United Nations.(2015). Resolution adopted by the General Assembly on 25 September 2015, [https://www.un.org/en/development/desa/population/migration/generalassembly/docs/globalcompact/A\\_RES\\_70\\_1\\_E.pdf](https://www.un.org/en/development/desa/population/migration/generalassembly/docs/globalcompact/A_RES_70_1_E.pdf).(閲覧日 2021 年 10 月 23 日)
- Vaithianathan Rhema, Maloney Tim, Putnam-Hornstein Emily, Jiang Nan. (2013).Children in the Public Benefit System at Risk of Maltreatment -Identification Via Predictive Modeling-. *American Journal of Preventive Medicine*, 45(3), 354-359.
- Van der Puta. Claudia E, Bouwmeester-Landweerb. Merian B.R, Landsmeer-

- Beker. Eleonore A, Wit. Jan M, Dekker. Friedo W, Kousemaker. N Pieter J, Baartman. Herman E M.(2017). Screening for potential child maltreatment in parents of a newborn baby: The predictive validity of an Instrument for early identification of Parents At Risk for child Abuse and Neglect (IPARAN). *Child Abuse & Neglect*,70,160-168.
- Wild Diane et al.(2005). Principles of Good Practice for the Translation and Cultural Adaptation Process for Patient-Reported Outcomes (PRO) Measures: Report of the ISPOR Task Force for Translation and Cultural Adaptation. *VALUE IN HEALTH*,8(2),94-104.
- Wilson. Moira L, Tumen Sarah, Ota Rissa, Simmers. Anthony G.(2015). Predictive Modeling: Potential Application in Prevention Services. *American Journal of Preventive Medicine*.48(5), 509-519.
- World Health Organization Child maltreatment.(2021). <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/child-maltreatment>.(閲覧日 2021年10月14日)
- 吉村治正.(2020). ウェブ調査における回答率向上のための謝礼の影響について, 奈良大学大学院研究年報第 25 号,1-13.
- Zhu Xiaoping.(2014). Comparison of Four Methods for Handling Missing Data in Longitudinal Data Analysis through a Simulation Study. *Journal of Statistics*, 4, 933-944.